

참고문헌

특집 | ‘미술’이라는 창으로 보는 일본

‘쿨 재팬’과 일본화 | 아라이 게이

辻惟雄, 『奇想の系譜: 又兵衛-国芳』, 美術出版社, 1970(へりかん社, 1998; ちくま学芸文庫, 2004).

武田恒夫, 『狩野派絵画史』, 吉川弘文館, 1995.

古田亮, 『視覚と心象の日本美術史: 作家・作品・鑑賞者のはざま』, ミネルヴァ書房, 2014.

古田亮, 『「日本画」とは何だったのか: 近代日本画史論』, 角川選書, 2018.

北澤憲昭, 『眼の神殿: 「美術」受容史ノート』, 美術出版社, 1989(ブリュッケ, 2010).

北澤憲昭, 『境界の美術史: 「美術」形成史ノート』, ブリュッケ, 2000.

佐藤道信, 『〈日本美術〉誕生: 近代日本の「ことば」と戦略』, 講談社, 1996.

佐藤道信, 『明治国家と近代美術: 美の政治学』, 吉川弘文館, 2007.

荒井経, 『日本画と材料: 近代に創られた伝統』, 武蔵野美術大学出版局, 2015.

《MOTアニュアル2006 No Border 「日本画」から / 「日本画」へ》展図録, 東京都現代美術館, 2006.

‘기상(奇想)의 계보’: 미술사의 대중화, 혹은 일본미술사 새로 쓰기 | 최재혁

辻惟雄, 『奇想の系譜』(ちくま学芸文庫), 筑摩書房, 2004.

辻惟雄, 『奇想の図譜』(ちくま学芸文庫), 筑摩書房, 2005.

辻惟雄, 『奇想の発見 ある美術史家の回想』, 新潮社, 2014.

辻惟雄, 『岩波日本美術の流れ7 日本美術の見方』, 岩波書店, 1992.

辻惟雄, 「奇矯の画家-流派ならざる流派」, 『みづゑ』, 1971. 9.

辻惟雄×山下裕二, 「21世紀の若冲 書き換えらる日本美術史」, 『ユリイカ』, 2009. 11.

辻惟雄×山下裕二, 「対談『奇想の系譜』以前・以後」, 『日本美術の発見者たち』, 東京大学出版会, 2003.

辻惟雄×山下裕二, 「日本美術史を書き換える試みに終わりなし」, 『日本美術応援団 今度は日本美術全集だ!』, 小学館, 2016.

小金沢智, 「若冲現代史 - 美術史はどう書き換えられたのか」, 『美術手帳』, 2016. 5.

山下裕二, 「日本美術の「ハピネス」若冲, 蕭白, 白隠」, 『ハピネス アートに見る幸福への鍵』, 森美術館, 2003.

村上隆, 「スーパーフラット日本美術論」, 『スーパーフラット』, マドラ出版, 2000.

우키요에 불과 21세기 자포니즘 | 강태웅

강태웅, 「일본의 문화교류정책과 동아시아」, 『일본과 동아시아 지역협력과 공동체 구상』(EAI 외교안보대전략시리즈 10), EAI, 2011.

浅野秀剛, 『浮世絵細見』, 講談社選書メチエ, 2017.

稲賀繁美, 『絵画の東方-オリエンタリズムからジャポニスムへ』, 名古屋大学出版会, 2003.

木々康子, 『春画と印象派』, 筑摩書房, 2015.

北澤憲昭, 『眼の神殿-「美術」受容史ノート』, ブリュッケ, 2010.

菅原真弓, 『浮世絵版画の十九世紀-風景の時間, 歴史の空間』, ブリュッケ, 2009.

高階秀爾, 『日本美術を見る眼』, 岩波書店, 1996.

内藤正人, 『うき世と浮世絵』, 東京大学出版会, 2017.

中野明, 『流出した日本美術の至宝』, 筑摩選書, 2018.

林美一, 『浮世絵の極み-春画』, 新潮社, 1994.

堀口菜純, 『江戸はスゴイ-世界一幸せな人々の浮世ぐらし』, PHP新書, 2016.

馬淵明子, 『ジャポニスム-幻想の日本』, ブリュッケ, 2015.

美術手帳編, 『葛飾北斎-江戸から世界を魅了した画狂』, 美術出版社, 2017.

Louis van Tilborgh, *Van Gogh and Japan*, Van Gogh Museum, 2010.

서구를 향한 일본미술 선전: 독자성과 오리엔탈리즘 | 노유니아

후지와라 사다오, 「東洋美術史學의 형성과정에서 역사관·문화적 가치관」, 『미술사논단』 20호, 2005.

石上阿希, 『日本の春画・艶本研究』, 平凡社, 2015.

稲賀繁美, 「名作と巨匠の認知をめぐる認識の齟齬: 「日本美術史」形成期(1870~1900)を中心に」, 『美術フォーラム21』 4号, 醍醐書房, 2001.

宮内庁三の丸尚蔵館 編, 『帝室技芸院と一九〇〇年パリ万国博覧会』, 宮内庁, 2008.

高木博志, 「日本美術史の成立・試論-古代美術史の時代区分の成立」, 『日本史研究』 400号, 1995.

東京国立文化財研究所, 『明治期万国博覧会美術品出品目録』, 中央公論美術出版, 1997.

東京国立博物館 他, 『世紀の祭典 万国博覧会の美術 パリ・ウィーン・シカゴ万博に見る東西の名品』, NHK・日本経済新聞社, 2004.

農商務省, 『稿本日本帝国美術略史』, 国華社, 1901.

The Office of the Imperial Japanese Government Commission to the Japan-British Exhibition, *An Illustrated Catalogue of Japanese Old Fine Arts displayed at the Japan-British Exhibition London 1910*, Shimbi Shoin, 1910.

The Office of the Imperial Japanese Government Commission to the Japan-British Exhibition, *An Illustrated Catalogue of Japanese Modern Fine Arts displayed at the Japan-British Exhibition London 1910*, Shimbi Shoin, 1910.

Timothy Clark C. eds., *Shunga: sex and pleasure in Japanese art*, London: The British Museum Press, 2013.

일본미술응원단: 전위의 우익 코스프레 | 오윤정

권혁태, 『일본 전후의 붕괴: 서브컬처, 소비사회 그리고 세대』, 제이앤씨, 2013.

사와라기 노이, 김정복 옮김, 『일본·현대·미술』, 두성북스, 2012.

赤瀬川原平, 『名画読本: 日本画編』, 光文社, 1993.

赤瀬川原平, 『赤瀬川原平の日本美術観察隊 其の1』, 講談社, 2003.

赤瀬川原平·山下裕二, 『日本美術応援団』, 日経BP, 2000.

赤瀬川原平·山下裕二, 『雪舟応援団』, 中央公論社, 2002.

赤瀬川原平·山下裕二, 『日本美術観光団』, 朝日新聞社, 2004.

赤瀬川原平·山下裕二, 『実業美術館』, 文藝春秋, 2007.

赤瀬川原平·山下裕二, 『京都, オトナの修学旅行』, ちくま書房, 2008.

赤瀬川原平·山下裕二, 『日本美術応援団: オトナの社会科見学』, 中央公論新社, 2011.

浅田彰, 「J回帰」の行方, 『Voice』267, 2000. 3.

浅野敏一郎, 『戦後美術展略史 1945~1990』, 求龍堂, 1997.

山下裕二, 「日本美術応援団: 現代における美術への視点」, 『表現』(2), 2008. 5.

山下裕二, 「『日本美術ブーム』の実相」, 『一冊の本』15(3), 2010. 3.

山下裕二·井浦新, 『日本美術応援団: 今度は日本美術全集だ!』, 小学館, 2016.

오타쿠 문화와 일본미술의 연합: 금기를 넘어선 전쟁 기억의 복원 | 김일림

윤해동·황병주 외, 『식민지 공공성』, 책과 함께, 2010.

이동연, 『아시아 문화연구를 상상하기』, 그린비, 2006.

佐々木毅(編集), 金泰昌(編集), 『公共哲学(1): 公と私の思想史』, 東京大学出版会, 2001.

斎藤純一 編, 『親密圏のポリティクス』, ナカニシヤ出版, 2003.

斎藤純一·竹村和子, 「対談 親密圏と公共圏のくあいだ: 孤独と正義をめぐる」, 『思想』(925), 2001년 6월호.

佐藤道信, 『〈日本美術〉誕生』, 講談社, 1996.

佐藤道信, 『明治国家と近代美術: 美の政治学』, 吉川弘文館, 1999.

宮本直美, 『宝塚ファンの社会学: スターは劇場の外で作られる』, 青弓社, 2011.

村上隆, 『SUPERFLAT』, 마ドラ, 2000.

村上隆, 『村上隆 完全読本 美術手帳記事 1992~2012』, 美術出版社, 2012.

唯物論研究協会, 『親密圏のゆくえ』, 唯物論研究協会, 2004.

ユルゲン·ハーバー마스, 細谷貞雄, 山田正行 訳, 『公共性の構造転換: 市民社会の一カテゴリーについての探究』, 未来社, 1973; 1999.

和田充夫, 『関係性マーケティングと演劇消費: 熱烈ファンの創造と維持の構図』, 다이아몬드社, 1999.

Hannah Arendt, *The human condition*, Chicago: University of Chicago Press, 1958; 1998.

Takashi Murakami, *Little Boy: The Arts Of Japan's Exploding Subculture*, New Heaven and London: Yale University Press, 2005.

불상과 사진: 도문켄(土門拳)의 고사순례와 20세기 중반의 '일본미술' | 김계원

- 강태웅, 「'싸우는 미술'(戦ぶ美術): 아시아태평양전쟁기 일본의 미술은 어떻게 싸웠는가」, 『일본학보』 99호, 2014.
- 박소현, 「전쟁의 기억과 '문화국가'론」, 『예술경영연구』 44, 한국예술경영학회, 2017.
- 土門拳, 「仁と愛と」, 『写真週報』 17号, 1938. 6.
- 土門拳, 「呆童漫語(三)」, 『フォトタイムス』, 1940. 9.
- 土門拳, 「日本報道写真協会報告」, 『報道写真』, 1942. 2.
- 土門拳, 「私の履歴書」, 『日本日経新聞』, 1977. 12. 25.
- 土門拳, 「ぼくの好きなもの」, 『古寺巡礼第四集』, 美学出版社, 1971.
- 土門拳, 「まえがき」, 『古社寺巡礼第五集』, 美術出版社, 1975.
- 土門拳, 「車椅子からの視点」, 『古寺巡礼第五集』, 美学出版社, 1975.
- 渡辺勉, 「土門拳 リアリズムにおけるその二面性」, 『アサヒカメラ』 56卷 1号, 1971. 1.
- 藤本四八, 「仏像写真・昔ばなし」, 『アサヒカメラ』 60卷 3号, 1975. 3.
- 岸哲男, 「解説」, 『土門拳自選作品選集』, 世界文化社, 1977.
- 岡井輝毅, 『土門拳の格闘: リアリズム写真から古寺巡礼への道』, 成甲書房, 2005.
- 碧海寿広, 『仏像と日本人: 宗教と美の近代史』, 中央公論, 2018.
- 藤本四八, 『仏像をとる』(現代カメラ新書 No.45), 朝日ソノラマ, 1997.
- 増田玲, 「鑑賞の位相: 美術出版社刊『日本の彫刻』をめぐる」, 東京国立近代美術館研究紀要 15, 2011.
- Aso, Noriko, "Sumptuous Re-past: The 1964 Tokyo Olympics Arts Festival," *positions: asia critique* 10:1, Spring 2002.

일본의 소주택과 '작음'의 담론: 전후에서 탈전후 건축으로 | 조현정

- 구마 겐고, 민경옥 옮김, 『작은 건축』, 안그라픽스, 2015.
- 구마 겐고, 임태희 옮김, 『약한 건축』, 디자인 하우스, 2009.
- 貝島桃代, 黒田潤三, 塚本由晴, 『メイド・イン・トーキョー』, 鹿島出版会, 2001.
- 隈研吾, 『境界: 世界を変える日本の空間操作術』, 淡交社, 2010.
- 難波和彦, 『箱の家: エコハウスをめざして』, 出版株式会社, 2006.
- 難波和彦, 『戦後モダニズム建築の極北-池辺陽試論』, 彰国社, 1998.
- アトリエ・ワン, 『ペット・アーキテクチャー・ガイドブック』, ワールドフォトプレス, 2001.
- 五十嵐太郎, 「九坪ハウス考」, 『10+1』 no. 30, 2003.
- 五十嵐太郎, 『日本建築入門: 近代と伝統』, ちくま書房, 2016.
- 萩原修, 『九坪の家』, 広済堂出版, 2000.
- 篠原一男, 『住宅論』, SD選書, 2012.
- Nuijsink, Cathelijne, *How To Make A Japanese House*, Rotterdam: nai010 publishers, 2012.
- Taro, Igarashi, David Noble trans., *Contemporary Japanese Architects*, JPIC, 2008.

연구논단

오만한 일본, 불안한 제국: 다이쇼 시대(1912~1926) 일본의 국가정체성 변화와 대외정책 | 한정선

나가타 아키히미, 박환무 옮김, 『일본의 조선통치와 국제관계: 조선독립운동과 미국, 1910~1922』, 일조각, 2008.

사카이 테쓰야, 장인성 옮김, 『근대 일본의 국제질서』, 연암서가, 2010.

한상일, 『일본 제국주의의 한 연구: 대륙낭인과 대륙팽창』, 까치글방, 1977.

伊東家文書, 小林龍夫編, 『翠雨莊日記: 臨時外交調査委員會會議筆記等』, 原書房, 1966.

信夫淳平, 『大正外交十五年史』, 研文社, 1927.

原敬, 『原敬日記 4』, 福村出版社, 1965.

原敬全集刊行會編, 『原敬全集 下』, 原書房, 1969.

吉野作造, 『吉野作造選集 6』, 岩波書店, 1996; 『吉野作造選集 7』, 岩波書店, 1995; 『吉野作造選集 8』, 岩波書店, 1996.

入江昭, 『日本の外交: 明治維新から現代まで』, 中公新書, 1966.

北岡伸一, 『日本陸軍と大陸政策 1906~1918』, 東京大學出版會, 1978.

櫻井良樹, 『辛亥革命と日本政治の變動』, 岩波書店, 2009.

Jung-Sun N Han, *An Imperial Path to Modernity: Yoshino Sakuzo and a New Liberal Order in East Asia, 1905~1937*, Cambridge: Harvard University Asia Center Press, 2013.

Erez Manela, *The Wilsonian Moment: Self-Determination and the International Origin of Anticolonial Nationalism*, Oxford: Oxford University Press, 2007.

Naoko Shimazu, *Japan, Race and Equality: The Racial Equality Proposal of 1919*, London: Routledge, 1998.

전시 일본의 국가정체성과 동아시아 질서: 국방국가 구상과 ‘초근대’의 상상 | 정지희

박영준, 「일본 군국주의의 한 내면(內面): 이시와라 간지(石原莞爾)에 있어 ‘세계최종전쟁론’과 ‘국방국가론’」, 『한국정치외교사논총』 37집 2호, 2016.

이에나가 사부로 엮음, 연구공간 ‘수유+너머’ 일본근대사상탐 옮김, 『근대 일본 사상사』, 소명출판사, 2006.

임성모, 「‘국방국가’의 실험: 만주국과 일본파시즘」, 『중국사연구』 16집, 2001.

임성모, 「대동아공영권 구상에서의 ‘지역’과 ‘세계」」, 『세계정치』 26집 2호, 2005.

安部博純, 『日本ファシズム論』, 影書房, 1996.

荒川幾男, 「国防國家の思想と大東亞共榮圈の問題」, 『近代日本思想史大系 第2卷 近代日本社会思想史 1』, 有斐閣, 1968.

奥村喜和男, 『国防國家としての日本』, 報国の会, 1941.

奥村喜和男, 『変革期日本の政治經濟』, さゝき書房, 1940.

企画院研究会 編, 『国防國家の綱領』, 新紀元社, 1941.

黒田覚,『国防国家の理論』,弘文堂,1941.

橋川文三,「国防国家の理念」,『近代日本思想史大系 第4巻 近代日本政治思想史 II』,有斐閣,1970.

源川真希,『近衛新体制の思想と政治: 自由主義克服の時代』,有志社,2009.

陸軍省新聞班,『国防の本義と其強化の提唱』,陸軍省,1934.

Gottfried, Paul Edward, *After Liberalism: Mass Democracy in the Managerial State*, Princeton and Oxford: Princeton University Press, 1999.

Mimura, Janis, *Planning for Empire: Reform Bureaucrats and the Japanese Wartime State*, Ithaca and London: Cornell University Press, 2011.

전시기 일본 여성의 광산노동과 보육:

아키타현(秋田県) 하나오카(花岡)광산을 중심으로 | 김경옥

中央社会事業協会社会事業研究所,『本邦保育施設に関する調査』,1943.

井上房江,「(附)某鉱山託児所を見て」,『労働科学』第20巻 第3号,労働科学研究所,1943. 3.

井上房江,「東北地方某金属山の肺結核罹患状況及其珪肺との関係」,『労働科学』第20巻 第10号,労働科学 研究所,1943. 10.

「特輯 - 非増産下の銅《上北・花岡鉱山》新鉱発見に蘇る東北の地下資源」,『新経済社』第3巻 15号,1943. 8.

市川房枝編纂,『婦人会の動向』,文松堂出版株式会社,1944.

労務行政研究所,『労政時報』(875),1944. 8.

木葉武英,「花岡鉱山の健保(2)」,『健康保険』第4巻7号,健康保険組合連合会,1950. 7.

同和鉱業株式会社,『七十年の回顧』,1955.

労働省,『労働行政史』第一巻,労働法令協會,1961.

田山久,『花矢・大館地方史』,花矢町教育委員会,1967.

秋田県産業労働部鉱務課,『秋田県鉱山誌』,1968.

大館市史編纂委員会,『大館市史』第3巻下,大館市,1986.

『戦前日本の社会事業: 社会福祉資料』第1期 第8巻,柏書房,2017.

석유위기 후 가마이시제철소의 합리화 사례 연구: 원만한 구조조정 조건의 모색 | 정진성

정진성,「일본의 산단지역진흥정책: 산업구조조정정책에서 지역개발정책으로」,서울대일본연구소,『일본비평』제8권,2013.

新日本製鐵株式会社釜石製鐵所,『釜石製鐵所九十年史: この十年の歩み』,1976.

新日本製鐵株式会社,『炎とともに』,1981.

新日本製鐵株式会社釜石製鐵所,『鉄と共に百年』,1986.

新日本製鐵釜石労働組合,『新日本製鐵釜石労組五十年史』,1996.

青木宏之,「釜石製鐵所の経営合理化をめぐる労使の対応」,『社会科学研究』第59巻 第2号,2008.

伊部正之,「新日鉄釜石にみる『合理化』と労働組合」,『東北経済』73号,1983.

兼田繁,「釜石研究の課題と概要-中間報告をまとめるにあたって」,『東北経済』72号,福島大学,1982.

- 佐々木幸生,『釜石まちおこし最前線』,東海印刷所,1990.
- 新明正道,「産業都市の構造分析」,東北社会学会,『社会学研究』17号,1959.
- 鈴木玉緒,「“企業城下町”の変貌過程:釜石市の現在」,『広島法学』20巻2号,1996.
- 田野崎昭夫編,『企業合理化と地方都市:釜石市における対応と展開』,東京大学出版会,1985.
- 中央大学社会科学研究所研究チーム,『地域社会の変動と社会計画:釜石社会と釜石製鉄所』,中央大学社会科学研究所研究報告 第25号,2007.
- 東大社研・玄田有史・中村尚史編,『希望の再生:釜石の歴史と産業が語るもの』,東京大学出版会,2009.
- 戸塚秀夫・兵藤釗編,『地域社会と労働組合』,日本経済評論社,1995.
- 仁田道夫,『日本の労働者参加』,東京大学出版会,1988.
- 一言憲之・安田尚道,『地域産業の再構築戦略』,新評論,1993.
- 松石泰彦,『企業城下町の形成と日本的経営』,同成社,2010.
- 松崎義,「鉄鋼争議(一九五七・五九):寡占競争下の賃金闘争」,労働争議史研究会編,『日本の労働争議(1945~80年)』,東京大学出版会,1991.